## 報告書の記載要領

森林法施行規則の規定に基づき、申請書等の様式を定める件（昭和37年７月２日農林省告示第851号）

６の２　規則第14条の２の報告書の様式

様式は正しいか？

記載漏れはないか？

伐採に係る森林が所在する市町村の長あてとなっているか？

伐 採 に 係 る 森 林 の 状 況 報 告 書

　　年　　月　　日

　　　市町村長　殿

伐採の期間の末日から30日以内に提出されているか？

住　所

法人にあつては、名

称及び代表者の氏名

記載の内容と森林簿情報に齟齬はないか？

報告者 氏名

　年　月　日に提出した伐採及び伐採後の造林の届出書に係る森林につき次のとおり伐採を実施したので、森林法第10条の８第２項の規定により報告します。

報告者の氏名・住所が正確に記載されているか？

①伐採箇所ごとに報告書を作成する。

②複数地番にまたがる場合は、全ての地番を記載する。

１　森林の所在場所

届出書の「伐採の計画」に従ったものとなっているか？

|  |
| --- |
| 市　　　　町  　　　　　　　　　　大字　　　字　　　地番  　　　郡　　　　村 |

小数第2位まで記載されているか

（第3位で四捨五入されているか）？

２　伐採の実施状況

伐採率は、立木材積による伐採率(％)となっているか？

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 伐採面積 | | | ha（うち人工林　ha、天然林　ha） | | |
| 伐採方法 | | | 皆伐　・　択伐 | 伐採率 | ％ |
|  | 森林所有者（造林する者）の伐採跡地の確認の有無 | | 有　・　無 | | |
| 作業委託先 | | |  | | |
| 伐採樹種 | | |  | | |
| 伐採齢 | | |  | | |
| 伐採の期間 | | | 届出に記載した期間に収まっているか？ | | |
| 集材方法 | | | 集材路・架線・その他（　　　　） | | |
|  | | 集材路の幅員・延長 | 幅員　　　　ｍ　・　延長　　　　ｍ | | |

幅員３m超で、その面積が

１ha超となっていないか？

３　備考

1. 伐採後の用途が森林以外（転用）である場合、その用途及び時期が記載されているか？
2. 相続等により届出書とは異なる森林所有者が提出する場合、当該相続等に係る情報が記載されているか？

|  |
| --- |
|  |

注意事項

１　報告に係る森林の所在する市町村ごとに提出すること。

２　森林の所在場所ごとに記載すること。

３　面積は、小数第２位まで記載し、第３位を四捨五入すること。

４　伐採率欄には、立木材積による伐採率を記載すること。

５　樹種は、すぎ、ひのき、まつ（あかまつ及びくろまつをいう。）、からまつ、えぞまつ、とどまつ、その他の針葉樹、ぶな、くぬぎ及びその他の広葉樹の別に区分して記載すること。

６　伐採齢欄には、伐採した森林が異齢林の場合においては、伐採した立木のうち最も多いものの年齢を記載し、最も年齢の低いものの年齢と最も年齢の高いものの年齢とを「（○～○）」のように記載すること。

## 報告書の記載例

1. 伐採方法が皆伐の場合の伐採に係る森林の状況報告

伐 採 に 係 る 森 林 の 状 況 報 告 書

　令和４年12月20日

　　　○○市長　殿

伐採の期間の末日から30日以内であり、適正。

住　所　　　　○○市○○町１－２－３

報告者 氏名　森林　太郎

令和４年９月１日に提出した伐採及び伐採後の造林の届出書に係る森林につき次のとおり伐採を実施したので、森林法第10条の８第２項の規定により報告します。

複数地番にまたがる場合は、該当する全ての地番を記載する。

１　森林の所在場所

|  |
| --- |
| ○○市　△△町　大字○○　字△△　地番1234-1番地、1234-2番地 |

全ての地番の合計面積を記載する。

２　伐採の実施状況

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 伐採面積 | | | 2.00ha（うち人工林2.00ha） | | |
| 伐採方法 | | | 皆伐　・　択伐 | 伐採率 | 100％ |
|  | 森林所有者（造林する者）の伐採跡地の確認の有無 | | 有　・　無 | | |
| 作 業 委 託 先 | | | （有）○○林業 | | |
| 伐採樹種 | | | スギ | | |
| 伐採齢 | | | 50 | | |
| 伐採の期間 | | | 令和４年11月15日～令和４年12月10日 | | |
| 集材方法 | | | 集材路・架線・その他（　　） | | |
|  | | 集材路の幅員・延長 | 幅員　３ｍ　・　延長　５００ｍ | | |

３　備考

|  |
| --- |
|  |

注意事項

１　報告に係る森林の所在する市町村ごとに提出すること。

２　森林の所在場所ごとに記載すること。

３　面積は、小数第２位まで記載し、第３位を四捨五入すること。

４　伐採率欄には、立木材積による伐採率を記載すること。

５　樹種は、すぎ、ひのき、まつ（あかまつ及びくろまつをいう。）、からまつ、えぞまつ、とどまつ、その他の針葉樹、ぶな、くぬぎ及びその他の広葉樹の別に区分して記載すること。

６　伐採齢欄には、伐採した森林が異齢林の場合においては、伐採した立木のうち最も多いものの年齢を記載し、最も年齢の低いものの年齢と最も年齢の高いものの年齢とを「（○～○）」のように記載すること。

## ７　伐採及び集材に係るチェックリスト等の様式例

① 伐採及び集材に係るチェックリスト（例）

　　年　　月　　日

伐採する者：

森林の所在場所：

|  |  |
| --- | --- |
| チェック項目 | 確認 |
| （１）伐採の方法及び区域の設定  ①森林所有者に対し再造林の必要性を説明しその実施に向けた意識向上を図るとともに、伐採と造林の一貫作業の導入など作業効率の向上に努める。  ②林地や生物多様性の保全に配慮した伐採方法を採用する。  ③伐採する区域の明確化を行う。  ④林地や生物多様性の保全に配慮し、保護樹帯や保残木を設定するとともに、それらに架線や集材路を通過させる場合は影響範囲を最小限にする。  ⑤伐採が大面積にならないよう、伐採区域の複数分割、帯状・群状伐採などにより、伐採を空間的・時間的に分散させる。 | □ |
| （２）林地保全に配慮した集材路注１）・土場の配置・作設  ①集材路・土場の作設によって土砂の流出・崩壊が発生しないよう集材方法や使用機械を選定し、集材路・土場の配置を必要最小限にする。  ②地形等の条件に応じて、路網と架線を適切に組み合わせる。また、集材路の作設等により林地の崩壊を引き起こすおそれがある場合等の伐採・搬出は、架線集材とする。  ③土場の作設では法面を丸太組みで支える等の対策を講じる。  ④現場の状況に応じて、集材路・土場の配置に係る計画の変更を行う。  ⑤集材路の線形は、極力等高線に合わせる。  ⑥ヘアピンカーブは地盤の安定した箇所に設置する。  ⑦集材路・土場は渓流から距離を置いて配置する。  ⑧集材路は、沢筋を横断する箇所が少なくなるよう配置する。  ⑨伐採現場の土質が粘性土の場合は、集材路・土場の作設を避ける。やむを得ず作設する場合は、土砂が渓流に流出しない工夫をする。  ⑩伐採区域のみで集材路の適切な配置が困難な場合には、隣接地を経由することとし、隣接地の森林所有者等と調整を行う。  ⑪森林整備や木材の搬出のために継続的に用いる道を作設する場合は、森林作業道作設指針注２）に基づく森林作業道として作設する。  ⑫幅員が３ｍを超える集材路又は森林作業道を作設する場合は、その面積が１haを超えていない。  注１）集材路：立木の伐採、搬出等のために林業機械等が一時的に走行することを目的として作設する仮施設（道）（森林整備のために継続的に用いる道は森林作業道として集材路と区別する）。  注２）「森林作業道作設指針の制定について」（平成22年11月17日付け林整整第656号林野庁長官通知） | □ |
| （３）人家、道路、取水口周辺等での配慮  ①集材路・土場の作設時には保全対象の上方に丸太柵工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象が下にある場合には、その直上では集材路・土場を作設しない。  ②水道の取水口の周辺では集材路・土場を作設しない。 | □ |
| （４）生物多様性と景観への配慮  ①希少な野生生物の生息・生育を知った場合には、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。  ②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場の配置とする。 | □ |
| （５）切土・盛土  ①集材路の幅及び土場の広さは作業の安全を確保できる必要最小限とする。  ②切土高を極力低く抑える。盛土はしっかり絞め固め、必要な場合には、丸太組み工等を活用する。  ③残土が発生した場合には、渓流沿いを避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 | □ |
| （６）路面の保護と排水の処理  ①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。  ②路面の排水は、侵食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分の崩壊等を避けるための対策を講じる。 | □ |
| （７）渓流横断箇所の処理  ①渓流横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施工、維持管理する。暗渠を用いる場合は、詰まりが生じないような対策を講じる。洗い越しとする場合は、横断箇所で集材路の路面を一段下げる。  ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 | □ |
| （８）作業実行上の配慮  ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一定期間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。  ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する。  ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。  ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。  ⑤枝条等が渓流に流出しないように対策を講じる。  ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げとならないように留意する。 | □ |
| （９）事業実施後の整理  ①枝条等は木質バイオマス資材等への有効利用を検討するとともに、枝条等を伐採現場に残す場合は、渓流に流れ出たり、林地崩壊を誘発したりすることがないように、適切な場所に整理する。  ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。  ③伐採・搬出に使用した資材・燃料等は確実に整理、撤去する。  ④伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等と確認し、必要な措置を講じる。 | □ |

② 搬出計画図（例）

